

# 《指環》は一つの物語にすぎません

なぜ、ジークフリートは失敗したのか？

2023/09/20 改訂版



## 《ニーベルングの指環》は失敗物語

このワーグナーの《ニーベルングの指環》も、また、「世界救済物語」の一つにすぎません。ただし、その失敗物語です。私たちがいつも求めている物語は、世界の混乱を鎮める物語です。この世は常に、不幸と不安と不信に満ちています。なにか悪モノが、わたしたちの生活に対して害をなしています。その悪モノを、どこから英雄が現れて打ち砕いてくれる物語を、いつも必要としています。それが、オペラであるとさらにいいのですが。

## 他国への侵略と略奪

天上に住む神々もまた、多くの悪に囲まれています。神々もまた、常に不幸と不安と不信に囲まれています。権力を持つ神々に対して悪をなそうと、虎視眈々と狙っている他の神々がいます。そして、地上に住む巨人族も神々を襲おうとしています。地下に住むニーベルング族もまた神々の座を狙っています。いまは、冷戦の時代です。この間に、神々の王ヴォータンは、強固なお城を巨人族に命じて造らせました。軍備拡張です。その報償に、

ヴォータンの妻フリッカの妹フライアを与えることで同意しました。人身(神身?)売買です。でも、フライアは生命の女神であり、毎日、フライアは生命のリングを神々に与えてその生命を長らえさせているのです。ヴォータンは、本気で生命の神フライアを与えるつもりはありません。最初から、契約不履行を承知で、取り引きをおこなったのです。それで、フライアの代わりに黄金を与えることで、再度、巨人たちの了解を得ます。でも、手元に黄金などありません。ヴォータンは、今度は、債務不履行におちいります。最近、地下資源を豊富に持つニーベルング族の首領アルベリヒが新たな黄金を手に入れたという情報を得ます。その黄金を奪おうというのです。他国への侵略と略奪です。ヴォータンは、火の神ローゲを道案内に地下のニーベルハイムへ降りていき、まんまとアルベリヒをだまして黄金を手に入れます。その黄金の中には、この世を征服できる力をもった魔法の指環も含まれていました。しかし、この魔法の指環にはアルベリヒの呪いが込められています。

## 神々は原人間

でも、神々の王であるヴォータンも酷いことをするものです。他国への侵略や略奪や契約不履行や浮気や私生児とシングルマザーを作っては捨てていきます。神さまのすることではありません。いえ、いえ、ヴォータンたちは、私たちが思っている、神さま、仏さまといった崇拝すべき理想の存在ではないのです。神とは名ばかりで、言ってみれば、人間の「プロトタイプ」なのです。「プロトタイプ」(prototype) を辞書で引いてみると、「試作品・後での改良を見込んで、その仕事をする大筋として作る最初の模型」となっています。なるほど、神々とは人間の試作品で、これから人間になる、いまだ不完全な人間のことなのです。ですから、人間が試みることをはすべて、この神々はします。悪いことも、良いことも、すべて。ワグナー研究者たちは、ヴォータンたちを神ではなくて、「原人間」(Urmenschen) と称しています。それで、ヴォータンは、アルベリヒや巨人たちと変わらず、私利私欲が強くて、他人のものを平気で奪い、約束は守らず、女の人を凌辱(りょうじやく)し、好き勝手なことをし放題なのです。人間のなれ初(そ)めです。

## 英雄物語は振り出しに

さて、《指環》物語ですが、神々からアルベリヒの黄金と指環を受けとった巨人の兄弟は、奪い合いをして、弟の巨人が兄を撃ち殺し(アルベリヒの呪いです)、黄金と指環を手に入れ、深い森の中の洞窟に籠もります。一国のクーデターと内戦と独裁と独占です。この指環を略奪しようとヴォータンとアルベリヒが競い合います。二強による世界大戦です。ヴォータンとアルベリヒは、共に、人間に産ませた子どもを使って代理戦争をおこないます。英雄ジークフリートと悪者ハーゲンです。でも、なぜか、期待されたジークフリートはハーゲンに殺されます。ジークフリートは、ヴォータンのような、知恵も力もある英雄ではなかったのです。世界は再び、不幸と不安と不信の世界にもどってしまいました。死んだジークフリートの意志をついで、妻のブリュンヒルデは、黄金の指環を再びライン河に戻します。でも、物語は振り出しにもどっただけです。地下資源は、相変わらず列国に狙われています。

ここでまた、私たちは、新しい物語が必要になってきました。これまでの物語のように、世の中の不幸と不安と不信をなくす解決策を示す新しいオペラを求めています。

不幸と不安と不信の世界を克服するには、正しい民主主義と自由主義と正義を身に付けた英雄の存在が必要です。それは、一時的な独裁者の姿でもあります。今度は失敗しないジークフリートです。それを、この、陰謀と侵略と裏切りと差別と横領と独占と人殺しが横行する《ニーベルングの指環》の物語から、逆説的に、学ぶことができます。

## 共同体としての参加型社会「コモンズ」

でも、民主主義と自由主義の社会であればあるほど、やはり、個人の力では納まりません。いま、提案されている人気の物語は、これまでのような互いに敵対し、社会を個々に分断し、暴力的で偏狭な勢力が勢いづき、利己主義と個人主義を中心とした相互競争の中で生きる差別のある世界ではなくて、利他主義と相互支援に満ちた共同体としての参加型社会の創設です。これが、いま、評判の「コモンズ」です。地球の資源を共同化して、共同で管理して、共同利用するルールが機能する社会です。選挙も、代表民主主義ではなく、地域による参加型の民主制によるものにして、資源も管理も利用も地域に帰属するものにします。資源問題や経済問題も解消し、戦争や内紛も解決します。めでたしめでたしです。

## コモンズの悲劇

しかしここにも、「悲劇」はあります。「コモンズの悲劇」(tragedy of the commons)と呼ばれるもので、たとえば、共有地(コモンズ)である牧草地に複数の農民が牛を放牧する場合を考えてみましょう。ある農民は利益の最大化を求めてより多くの牛を放牧します。自身の所有地であれば、牛が牧草を食べ尽くさないように牛の数を調整しますが、共有地では、自身が牛を増やさないと他の農民が牛を増やしていき、自身の取り分が減ってしまいます。それで、それぞれが牛を最大限に増やしつづけ、その結果、こうして農民が共有地を自由に利用する限り、資源である牧草地は荒れ果て、すべての農民が被害を受けることになります。また、運良く、最後まで生き延びた農民は、全ての牧草地を独占することになります。結局、これは、「コモンズ」ではありません。これが、「コモンズの悲劇」の法則です。ここにも、正しい民主主義と自由主義と正義を身に付けた「英雄」が必要です。

## 国際レジーム

そこで、新たに現れた英雄が、「国際レジーム」(International regimes)という組織です。コモンズなどを提唱する国際社会において、特定のある問題(争点)について議論しようというものです。取り扱うのは、戦争や内紛などの核兵器の制限や兵器不拡散や集団防衛などの安全保障問題をはじめ、貿易、金融、投資、情報コミュニケーション、人権、環境、宇宙空間の管理に至るまで、国家間の調整を要する国際関係が、あらゆる課題です。

しかし、地球は広い。これもまた、グローバルには実現不可視で、いままだ、「コモンズ」もまた、新しい一つの物語に過ぎません。

ああ、先は長いです。

## 驚異の「新しいコモンズの物語」

— と、嘆いているそんなとき、土曜講座のマドンナからメールが来ました。驚きました。なんという、洞察力でしょう！ そこには、いま、求めていた「新しいコモンズの物語」が展開されていたのです。

**マドンナ** 「アルベルゴ・ディフーズ」(Albergo Diffuso)をご存知ですか？ イタリア語でアルベルゴは「宿泊施設」、ディフーズは「分散」です。ネットによれば — イタリアで始まった、空き家を活用した「町ごとホテル」のことで、街中にある空き家を宿泊施設として再生し、レセプション(フロントやコンシェルジュ機能をもつ施設)を中心とした、レストランやバー機能を有している客室の家、食堂の家、土産売場の家など、町中に、ホテルの施設を分散させて、観光客が長期間宿泊して、地元の人との交流も楽しめるようにしている

のだそうです。この都市の起死回生プロジェクトは、日本でも行われているそうです。この話を聞きながら「コモンズ」というのは、こういった感じなのかしらと思いました。

早速、ご返事しました。

**マエストロ** 驚きました。こんなに知性と感性と理解力と洞察力を持った女性がお仲間にいようとは思いませんでした。私の女友だちとといえば、美人で、きれいで、温和しくて慎ましく、いつも私を見る目が愛と優しさにあふれている人ばかりです。そのなかでも、「町ごとホテル」と「コモンズ」を瞬時に結びつけることができる知性と感性と理解力と洞察力をもった女の方は、あなたが最初です。「コモンズ」は、本来、自然が生んだ山や森や林や川や池を共同で使用するものです。元々ある、古くからの自然の恩恵に頼っています — と、私も、そう、おもっていました。でも、いまこそ、都市のなかにある共同で使用できるモノこそ、現代の「コモンズ」です。すなわち、あなたが言う、現代の都市の「空き家」こそ、現代のコモンズです。知りませんでした。ここには、「コモンズの悲劇」と呼ばれる「独占」も、「専制」も、「早い者勝ち」もありません。このあなたの判断は、画期的で、斬新で、創造的で、素晴らしいです。ありがとうございます。いま、新鮮な思いがしてとても嬉しいです。

### 連作 人は決して孤独ではない

人は決して孤独ではない	家を出るときカギかけて出る。
人は決して孤独ではない	家を出るときマスクして出る。
人は決して孤独ではない	非難中傷ネットでわんさと来る。
人は決して孤独ではない	同じユニクロ着た人に逢う。
人は決して孤独ではない	ラッキョ嫌いはどこにでも居る。
人は決して孤独ではない	近くの公園に母子が集いて孤独に逆らう。
人は決して孤独ではない	図書館で、あえて独り孤独を求める。
人は決して孤独ではない	そう思って無駄なメールを出しつづけてる。
人は決して孤独ではない	独り寝しても夢で恋敵に会う。
人は決して孤独ではない	と、隣の客は独り言いう。
人は決して孤独ではない	落とした財布がもどってくる。
人は決して孤独ではない	落とした財布がもどってこない。

【2023/09/20 改訂 都築正道】【2023/05/01 都築正道】